



宗祖法然上人 800回大遠忌 通信 号外V

2010年(平成22年)10月

法然上人と今、 すべてのいのち



大遠忌奉修

平成23年4月25日(月)

～ 5月1日(日)

法然上人の行跡を顕彰し
その功績を偲びませんか

法然上人を歩く旅
(二七〇キロのウォークラリー)

法然上人がお生まれになったのは現在の岡山県です。この生誕の地から京都比叡山までの約二七〇キロを十五回にわけて歩くものです。今まで十四回を数え、歩いた距離は二百六十七キロ。最終回は今年の十月三日(日)に叡電修学院駅から比叡山延暦寺までの八・七キロを歩きます。

※詳細は事務局までお問い合わせ下さい。

法然上人へ絵手紙を
書いてみませんか

法然上人に手紙を出すという仮想の中で、自分の想い、願い、夢などを絵手紙で表現していただこうというものです。

応募期間(第四回)

平成二十二年十月～十二月末

応募規定

葉書大に絵手紙を書き封書で郵送(個人情報保護のため)
絵にはひと言添えてください。

応募資格 不問

※応募作品の著作権は主催者に帰属。

法然上人最後の教え
「一枚起請文」を
なぞり書きしてみませんか

管長貌下ご染筆の色紙(印刷)を入れた写経セットには、写経用紙とともに、鉛筆やボールペンで、手軽になぞり書きできる用紙も同封しています。
ぜひこの機会にご本山への奉納をおすすめいたします。
奉納回向をして御影堂下の特設納経所に一年間お祀りいたします。

写経用紙セット

一セット 一、〇〇〇円

(含 奉納回向料)

宗祖法然上人800回大遠忌記念事業事務局

〒606-8445

京都市左京区永観堂町48

総本山 永観堂禅林寺内

電話 075-761-0007 FAX 075-771-4243

ホームページ <http://www.eikando.or.jp/daionki/>

法然上人と今、すべてのいのち 「本願に乗ずるといふことは」

ある時、ある方からこんなことを尋ねられたことがあります。

「法然上人の『一枚起請文』は時代遅れのお言葉ではありませんか？ 果たして現代の私たちに對して通ずるものなのでしょうか？」

確かに八〇〇年も前の言葉ではありません、古くないわけではありません。しかし、法然上人が生きたその時代のことだけを思い、残された言葉なのでしょうか？

私はそうとは思いませんでした。何故ならば、お釈迦様は阿難尊者に、『観無量寿経』において王舎城の悲劇の中で苦しむ韋提希夫人が、阿弥陀仏の大慈悲心によって救われていく姿を通して、未来世一切の衆生が救われる姿・教えを説き、後に広く伝えるように示されました。その『観無量寿経』をもとに善導大師が

の生活の中や、マスコミを通して耳にし、目にする現実には、決してその本質から逃れることのないものばかりで、私たち自身の行いも正に愚かな凡夫の姿に全く変わりはないのです。

「此外におくふかき事を存せば、二尊のあわれみにはずれ本願にもれ候べし。」

阿弥陀仏の大慈悲心も、お釈迦様のお知恵も、韋提希夫人の救われた姿も、善導大師のお心も、法然上人の悦びも、私たちの滅罪・往生の得益も、全ては「南無阿弥陀仏」の中に集約されていることに気付けば、きつと愚かな凡夫も「安らかなる心」を頂き、苦しみや悲しみに出会う一期の中に報恩感謝の日暮しが勧められるのではないのでしょうか。

正しく、法然上人が説かれるところの「本願に乗ずる」ということは、命が終わって往生できるといふことではなく、全てのものが平等に往生が決定していることに気付かされて、生きながらにして「安らかなる心」で報恩謝徳の日暮しができることなのです。だからこそ、『一枚起請文』は現代を生きる私たちにとって

『観無量寿経疏（観無量寿経の注釈書）』において、「道俗時衆等 各發無上心（出家者も在家者もいかなる時の者たちも おのおの無上の心を發せ）」と説かれ、その思いを受け継がれた法然上人が、その時代の人たちだけのことを考えていたわけではないはずで

きつと法然上人は、人間の本质（欲深く、疑心に溢れ、知識に溺れ、驕慢の思いに絆される心）を見抜いて、いついかなる時代においても悩み・苦しむ私たち・生きとし生けるものたち（衆生・凡夫）の為にこのお言葉を残されたに違いないのです。かく言う法然上人ご自身も、誠に知恵に優れ、堅く戒律を守り通されたにも関わらず、自らを「底下愚縛の凡夫なり」と称されて生涯凡夫の立場を貫かれました。

現代においては、確かに私たちの学力も、知力も、生活も非常に豊かになりましたが、日々も、決して時代遅れのお言葉ではなく、生き続ける法然上人の御心なのです。

この度、宗祖法然上人八〇〇回大遠忌を通して、今改めてお念仏によって現代を生きる私たちのいのちと、それまでに関わってきたところの有縁無縁の一切のいのちと、そしてこれから関わっていくところの無限のいのちが、平等に日々安らかであり、報恩感謝の心で満ち満ちていくことこそが法然上人のお心に適えることなのです。

京都 融雲寺 三輪恭明



来迎阿弥陀如来図より